

IV-24

観光パーソントリップ調査による乳頭温泉郷における観光客の動態分析

岩手大学 正 員 安藤 昭
 岩手大学 正 員 赤谷 隆一
 岩手大学大学院 学生員 橘 史生
 岩手大学 学生員 ○船倉 生也

1 はじめに

“ホスピタリティー”と“ソフトツーリズム”という観光の概念がある。ホスピタリティーとは、高度な精神的満足を求めて、ホストとゲストとのつながりをより人間的な関係にしようとする概念であり、ソフトツーリズムとは、観光客と地元住民との利害を考慮しながら、充実した観光設備と自然環境の保護を共に満足させようとする概念である。これまでに当研究室では、ホスピタリティーとソフトツーリズムの概念をもとに秘湯のイメージを明らかにしてきた。

本研究は、ホスピタリティーとソフトツーリズムの概念をもとに個性的な温泉観光地の一形態を創る基礎資料を得るために、秋田県・乳頭温泉郷を対象に観光パーソントリップ調査により、実際の秘湯の利用動態を明らかにすることを目的とするものである。

2 調査の概要

調査対象地は、観光ガイドなどに東北地方で最も秘湯らしい温泉観光地として紹介されている乳頭温泉郷とした。乳頭温泉郷は、秋田県駒ヶ岳の北東峰、乳頭山の西麓、先達川上流溪谷沿いにある素朴な一件宿の温泉（鶴の湯・黒湯・蟹場・大釜・妙の湯・孫六の湯）が点在している。（図-1参照）調査は観光パーソントリップ調査とし、日帰り・1泊の客に関しては、到着日の正午から次の日の正午までの1日についての全ての交通行動を、また、連泊客に関しては、出発日の前日に乳頭温泉郷内の全交通行動を明らかにした。調査期間は平成7年10月25日～平成7年11月3日に行ない、被験者は観光客を対象として調査した。個人属性を表-1に示す。

表-1 個人属性

	鶴の湯		黒湯		孫六		蟹場		大釜		妙の湯		計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
10代	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
20代	14	20	11	12	9	5	6	5	7	5	1	7	48
30代	10	9	12	4	11	9	12	4	4	1	7	4	36
40代	10	18	9	4	22	10	10	12	12	10	3	4	66
50代	15	12	13	12	20	10	12	6	11	5	2	3	75
60代	12	4	14	10	9	3	8	2	10	4	5	3	38
70以上	4	1	3	2	1	3	1	2	2	0	0	13	9
合計	68	63	54	44	72	40	51	30	47	27	18	20	224

3 解析結果及び考察

(1) 宿泊地別宿泊日数（表-2）

表-2より、宿泊地全体を見てみると、乳頭温泉

郷内の旅行日数は、日帰り29%・1泊69%となり、そのほとんどは、短期間の旅行である。また、鶴の湯では、宿泊客よりも日帰り客の方が多かった。このことは、鶴の湯は観光ガイドなどでの知名度があり、観光ついでに少し寄ってみるという客が多いものと思われる。表-2

表-2 宿泊地別宿泊日数

	日帰り	1泊	2泊	3泊	4泊～	計
鶴の湯	89	37	1	3	1	131
黒湯	14	94	0	0	0	108
孫六	15	93	4	0	0	112
蟹場	29	50	2	0	0	81
大釜	10	61	1	2	0	74
妙の湯	0	38	0	0	0	38
合計	157	373	8	5	1	544

(2) 年代別・性別別一人当平均トリップ数（表-3）

表-3より、性別・年代を問わず平均トリップ数は3前後と大差なく、トリップ数は少なかった。このことは、乳頭温泉郷内では、日帰りや1泊2日という短期間の旅行形態が多いために、温泉巡りをするほどの時間的な余裕がない。また、宿泊先の温泉を目的に訪れており他の温泉には、あまり興味がなく訪れないものと思われる。

表-3 年代別・性別別一人当たり平均トリップ数

	男性	女性	計
10代		2.000	2.000
20代	3.000	2.769	2.875
30代	2.714	3.000	2.813
40代	2.625	2.848	2.734
50代	3.127	3.147	3.134
60代	2.978	3.333	3.090
60代以上	2.911	3.310	3.047
合計	2.888	2.982	2.927

(3) 交通手段別一人当たり平均トリップ数（表-4）

表-4より、乳頭温泉郷内での移動は自家用車での移動がきわめて多い（80.2%）。温泉郷内には、散策道があるが、移動に自家用車を利用するためにほとんど利用されていないことが読み取れる。散策道を利用しないために、人々や、自然に直接触れ合う機会を逃しているものといえる。

表-4 交通手段別一人当たり平均トリップ数

	人数	トリップ数	割合(%)	平均トリップ数
自家用車	413	1181	80.2	2.859
レンタカー	38	102	6.9	2.684
路線バス	16	35	3.0	1.728
送迎バス	13	14	1.0	1.125
徒歩	13	32	2.2	2.462
散策道	5	9	1.0	1.800
自転車	53	65	4.4	1.226
タクシー	12	26	2.0	2.167
オートバイ	2	6	0.4	3.000
自転車	1	2	0.1	2.000
馬車	1	1	0.1	1.000

表-6 施設相互間トリップ数到着地

	蟹場	黒湯	大釜	孫六	鶴の湯	妙の湯	国民休暇村	鶴の湯	田沢湖
蟹場			4	1	2		3	1	9
黒湯	2			12	19	1			15
大釜	3	1		1	6	1			24
孫六		7	6		11	1			11
鶴の湯	9	12	4	7			12		26
妙の湯	4	3			4				2
国民休暇		2	3	7	2	2			
鶴の湯		1							
田沢湖	16	28	12	19	39	3	2		

(4)着施設別・目的別トリップ数について(表-5)

表-5より、どこの温泉でも「温泉に入る」という回答が一番多く、二番目に「宿泊」という回答が多かった。逆に、「珍しい料理を食べる」、「散策」という回答は少なかった。このことは、温泉のみを目的に訪れてそのまま宿泊するということが読み取れ、乳頭温泉郷内での移動が少ない理由として上げられる。

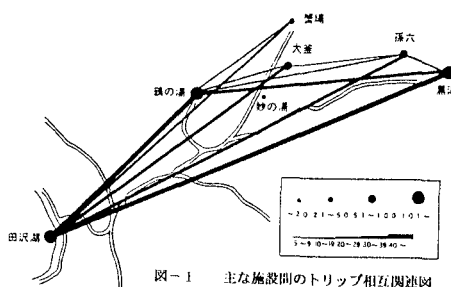
また、黒湯と孫六では、他の温泉宿と比べて「のんびりとくつろぐ」という回答が多く、特徴的といえる。このことは、他の温泉宿よりも奥まった場所に位置し、人里離れた雰囲気があるためと思われる。

表-5 着施設別・目的別トリップ数

	温泉に入る	宿	珍しい料理を食べる	のんびりとくつろぐ	散策	珍しい温泉を楽しむ	温泉	田沢湖	大釜	孫六	鶴の湯	妙の湯	国民休暇村	鶴の湯	田沢湖
蟹場の温泉	123	11	19	9	9	12	1	4	1	1	2		1	193	
黒湯温泉	69	28	29	17	10		2	1	1	1	1	2		140	
大釜温泉	61	16	9	33	9	2	1							130	
孫六温泉	36	17	11	8	1		1	3						95	
鶴の湯温泉	38	13	3	5	6	1			1					56	
妙の湯温泉	19	7	4	7	1		4		1		1			44	
国民休暇村	14	2		4										20	
鶴の湯	3	9					3							14	
田沢湖	3													3	
大釜温泉							1							1	
孫六温泉								1	2					5	
鶴の湯	401	99	11	21	15	13	9	7	1	4	2	1	754		

(6)主な施設間のトリップ相互関連図(図-1)

図-1より、これは、施設間のトリップ数が5以上のものについて、線の太さで表し、黒丸の大きさで着施設トリップ数を表したものである。主な施設間のトリップ相互関連図を見てみると、乳頭温泉郷内では距離のある鶴の湯-黒湯間のつながりが強いといえる。ところが、蟹場-大釜間、大釜-妙の湯間、大釜-孫六間、孫六-黒湯間は、徒歩での移動も十分に可能な距離にあるが、目立った移動は見当らなかった。



(5)施設相互間トリップ数について(表-6)

表-6より、乳頭温泉郷内の施設相互間のトリップ数は、多いとは言えない。このことは、目的別トリップ数で、「温泉に入る」という回答が多いことから、温泉に入るだけなら、別の温泉宿を訪れる必要がないと考える人が多いためかと思われる。特徴として、乳頭温泉郷内の相互間トリップは鶴の湯を中心としているといえる。

また、乳頭温泉郷を訪れる客は、田沢湖を訪れてから来るか田沢湖に寄ってから別の訪問地を訪れることが多いと言える。

4 まとめ

今回の調査で乳頭温泉郷内での動態を明らかにした。以上の結果より、乳頭温泉郷内の温泉間の移動は少なく、交通手段は自家用車を利用することがきわめて多いと言える。全体的に見てみると、乳頭温泉郷は、鶴の湯が中心となっている。しかし、郷内の温泉間の移動は非常に少ない。このことより、温泉間のつながりが重要視される。そのためには、それぞれの温泉地の個性化や、散策道の整備等が進めば、観光客の流れが生じてくるものと思われる。案内板の整備など温泉地の宣伝や、安全に歩ける散策道の整備が必要になってくる。それによって自然・風土・人々とのふれあいが生まれ、秘湯として温泉観光地の活性化につながるものと思われる。